

県指定重要文化財

吹屋小学校校舎

吹屋小学校校舎は、重要伝統的建造物群保存地区である吹屋の町並みのすぐ裏手に、高い丘に囲まれるように建っています。

校舎は、中央の本館の両側に東・西校舎を対称に配置し、それぞれを東・西廊下でつないでいます。これらは、明治三三年から四二



本館正面

年にかけて段階的に建築されたもので、ちょうど、「銅山とベンガラ」という吹屋の産業が最盛期を迎えた時期にあたります。まさに近代の吹屋を象徴する記念碑と言ってよいでしょう。当時、銅鉱山を経営していた三菱が本部跡地を寄贈、吹屋の豊かな財力もあって、立派な校舎がつくられました。

在校生は明治末から大正中期にピークを迎え、大正七年（一九一八）には三六九人を数えました。

平成一五年三月、明治期の洋風学校建築の貴重な例であるとして、本館、東・西校舎の三棟が県の重要文化財に指定され、翌年には東・西廊下も追加指定されました。

ところで、明治四一年から四二年にかけて建築された本館は、当時、岡山県の技術者であった江川三郎八による設計と推測されています。はっきりした記録はありませんが、建築の特徴が「江川式」と呼ばれるものと共通しているのです。

本館一階の奥にある三間廊下（かつての屋内運動場）の天井を見ると、非常にダイナミックな木組みが見られます。まるで鉄橋を思わせるような構造で、「江川式小屋組」と呼ばれています。

このような重厚な構造をもって、重い屋根や二階を効率的に支えたのです。江川自身、「多年苦心せる江川式小屋組の直ちに見ゆる様天井なしに建築す」（『生ひ立ちの記』）と語



三間廊下天井の小屋組

っており、天井を張らず、大胆な構造を見せ場にしたようです。同じような構造は、二階の講堂にも見られ（ただし天井裏に隠れている）、これによって柱のない大きな講堂空間を実現しています。

このようなすぐれた建築技術をもって建てられた吹屋小学校校舎は、現在でも校舎として使用されています。日本で最も古い現役小学校校舎と言われており、現代に生きる貴重な歴史的建造物です。

参考文献・写真の出典：独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編『高梁市立吹屋小学校校舎調査報告書』高梁市教育委員会 二〇〇五

（文・社会教育課文化係長 尾上元規）

編集と発行（毎月15日発行）高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。